

令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	4	事業区分：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名：公益財団法人兵庫県芸術文化協会 施設名：兵庫県立芸術文化センター
<p>助成対象活動に関する評価 （妥当性）</p> <p>阪神・淡路大震災からの「心の復興・文化の復興」のシンボルとして設置された当該劇場のミッションである「舞台芸術を通じて人とまちを元気にする」は、圏域における拠点として常に「劇場はみんなの心の広場」を掲げている。事業計画との整合性は明確であり、事業が適正に企画・組み立てられていると認められる。</p> <p>また、令和2年度まで「ひょうご舞台芸術魅力拡充事業」として実施してきた事業計画は、開館20周年に向けた新たなステージとして、「ひょうご『心の広場』ステップアッププロジェクト」と改め計画された。「にぎわいの安定・継続」による「人生を通じて楽しめる劇場空間の創出」などに取り組んでおり、事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定どおりに事業が推進されていることが認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>当該ホールの目標は、開館から続く「質の高い」創造芸術の発信、良質な「幅広いニーズ」に応える公演、優秀な人材の養成などを安定的に継続することである。特に、佐渡裕芸術監督によるプロデュースオペラのような質の高い創造芸術の発信をはじめ、多くのファンを呼び込む多彩な舞台芸術を展開して、高い集客力による運営実績を示している。また、「世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ」など、親しみやすく、低廉な料金で幅広いニーズに応える公演を継続して企画・実施し、裾野の拡大にも努めている。さらに、アカデミー機能を持つ専属管弦楽団での若手演奏家の育成、若手アーティストの登用や、県内外のホールとのネットワーク事業、連携なども積極的に行っている。また豊岡市に新しく開校した芸術文化観光専門職大学との協働を模索している。</p> <p>年間主催公演数やホール稼働日数は、コロナ禍以前と比較して若干の減少は認められるが、良好な実績を残すとともに、依然として新しいファンや広域からの来場者を獲得しており、高い入場率を維持している。規模の大きな事業のみならず、劇場の構造や舞台機構などを紹介するバックステージツアーの実施や、劇場周辺の地元企業や商店街などと協働しての野外イベント開催により、「劇場を核としたまちのにぎわい」を創出し、「芸術文化を通じた地域創生の推進」に努めている。特に「世界音楽図鑑」では、コロナ禍により海外からのアーティストが来日不可能となった際、地元エージェントとの協働で、地元出身のアーティストを含む日本人グループによる質の高いワールドミュージックを提供し、公演を維持したことは、特筆に値する。</p> <p>令和3年度はコロナ禍が続き、いくつかの公演が中止を余儀なくされたが、多くの公演で入場者数が目標値を上回った。万全の感染症対策を施し開催された事業は、観客に舞台芸術に接する機会を積極的に提供している。</p> <p>以上のことから、継続した実演芸術の水準向上と県民の鑑賞機会創出が安定的に実現しており、アウトカムの発現が期待できる。ただし、指標の設定や達成状況の検証には課題が残った。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。</p>		

（創造性）

「舞台芸術を通じて人とまちを元気にする」として、開館以来継続して行われた佐渡裕芸術監督によるプロデュースオペラにおいては、国内外の第一級の出演者やスタッフ、機能的に優れた舞台機構を持つ大ホールを使用し、国際水準の舞台芸術を創造・発信している。令和3年度は、当該劇場新演出によるオペラ「メリー・ウィドウ」全8公演を実施し、芸術監督を中心に、専属団体を越えた歌手のキャスティング、高度な専門性を持つマネジメントスタッフと舞台スタッフにより、芸術性の高い公演を提供した。また、唸家・桂文枝を起用し、独特の関西弁で複雑なストーリーをわかりやすく説明し、聴衆に喜歌劇の面白さを伝えた。元宝塚歌劇団トップスターを登場させたり、佐渡が演奏中に話をしたりとサービス精神旺盛な内容は、他のオペラ団体やホールにない事業の独創性・新規性が認められた。

このほかにも、地元の民俗芸能を取り上げた公演や、若手演奏家を起用しての「ワンコイン・コンサート」などを自主制作し、上演した。「世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ」では、来日不可能となったアーティストの代わりに地元出身のアーティストが質の高い演奏を提供し、長年にわたる公演により定着した聴衆を喜ばせた。

また、国内外のオーディションにより選抜された多国籍の若手演奏家からなる「専属管弦楽団」は、人材育成を目標としたアカデミー要素も持っているほか、県内の中学生にオーケストラの鑑賞機会を提供している。さらに、県内劇場とのネットワーク形成やアウトリーチ活動などの多彩な活動は、地域における音楽文化の発展に寄与しており、先導性が認められる。

人材面では、世界的指揮者の佐渡裕芸術監督をはじめ、劇場運営のプロフェッショナルであるゼネラルマネージャーや舞台技術スタッフを配置し、高い水準の芸術文化事業が提供可能な体制を取っている。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場の国内での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

組織面では、芸術監督をはじめ、外部から各部門のスペシャリストを雇用し、優秀な人材の確保を図っている。基本的な柱として、幹部体制の円滑な世代交代、計画的な再雇用制度の活用による人材育成と専門職の外部流出防止、無期雇用制度の導入等による職員の質的向上を進めている。

そのための人材育成として、管理監督職、専門人材などを中心にOJTを実施している。外部団体とは、県内外の劇場とネットワークを形成し、巡回公演や人材スキルアップなどにも貢献している。また、職員を教育機関や講習会などの講師として派遣し、外部の人材育成にも寄与している。

財務面では、指定管理料及び補助金で安定した維持管理費を確保し、各種公演への協賛金や助成金の獲得にも努力している。さらに、各ホールのネーミングライツによる資金獲得、地元企業の賛助会員拡大にも積極的であり、持続的な財務基盤の強化を図っている。

来場者については、5万人前後の会員を中心に高い入場率を継続しており、多くの県民の支持と期待に応えていると認められる。

以上のことから、事業計画を通じて組織活動が持続的に発展し、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できる。

（総 評）

開館以来、世界的指揮者でもある佐渡裕芸術監督とプロフェッショナルなスタッフの企画力・制作力により、高機能の舞台機構を生かした高い芸術水準の新演出オペラをはじめとした多彩な公演を実現している。また、地域のニーズに対応した企画と、リーズナブル

別紙（中間評価書）

に料金設定された様々な事業によって、高い集客率を実現している。さらに、大きな資産である専属管弦楽団を活用した今後の新たな事業展開にも期待が持てる。

当該劇場の事業計画「ひょうご『心の広場』ステップアッププロジェクト」は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められており、我が国を代表する優れた公立劇場として、戦略的な事業計画を実施していると認められる。

中間評価結果

（可否のいずれかに○を附す）

継続

可

否